# 都市戦略部 成果報告

都市戦略部長 堀内正人

#### 部局達成度

	<b>\\\\\\</b>	( <u>:</u> )	17511
-	10	-	10

# 総括

今年度は、市中心部でのまちづくり事業が滞り、地域鉄道の利用者数が伸び悩むなど達成度が低くなりました。

まちづくりに関しては、前々年の「ハピリン」のグランドオープンによる賑わいの効果をまだ中心市街地全体に波及できていないこと、また、公共交通に関しては、通勤通学以外の利用者が増えていないことが要因の一つと考えています。

一方、「ハピリン」はオープンから 2 年目の今年度も、開催されるイベントには集客力があり、ハピリンの来館者数は前年度並みを維持しています。また、北陸新幹線の福井開業が近づいていることで、中心部での地価の上昇やまちづくりへの民間の開発意欲は高まっていることから、この機を逃さず、そして北陸新幹線福井開業につなげることが大切です。

都市再生緊急整備地域の指定などにより、民間投資を呼び込み、再開発等の民間の開発意欲がさらに高まる取組を進めるとともに、まちの景観を魅力あるものとし、さらには商工労働部やまちづくり福井㈱と連携しながら既存の個店や商店街の魅力向上に取り組むことで中心市街地全体に賑わいが波及、創出されるように取り組んでいきます。また、公共交通に関しては、福井鉄道交通圏地域公共交通網形成計画に沿って、引き続き交通事業者と連携して利用者を増やすとともに、今年度の大雪での経験を踏まえ、県、えちぜん鉄道・福井鉄道両鉄道事業者と協力しながら雪に強い鉄道とし、できるだけ多くの方から便利、快適と思っていただけるよう努力します。

国体・障スポを迎えるにあたり、つるつるいっぱいのおもてなしの一環としての交通安全に結びつく横断歩道の歩行者優先など交通マナー向上に取り組みます。そのための街頭啓発などを交通安全推進団体や関係機関、警察等と連携して進めます。さらに、開催期間中は、交通指導員による交通整理などを行い、交通事故防止に努めます。

各種行政課題の解決には、統計情報の有効活用が重要です。統計分析が施策の展開につながるよう、来年度も職員が利用するデータベース「データの広場」の充実を図るとともに、職員の調査分析力を高めるため職員研修を実施し、データ分析方法などについて相談や支援を行います。

#### 組織目標ごとの達成状況

.次代に向けた県都の顔にふさわしい魅力と賑わいを創出するため、多様な都市機能の集積やハピリンによって生み出された新たな賑わい、まちなかにあふれる緑を活かしながら、民間のまちづくりを支援し、「県都デザイン戦略」を推進します

北陸新幹線福井開業を見据えた、民間事業者が主体となったまちづくり計画が複数動き出しており、こうした動きを後押しするため、平成30年1月に市街地総合再生計画を策定し、今後、都市再生緊急整備地域の国の指定に向けて取り組むことにより、民間による再開発事業等を支援します。ただ、中心市街地活性化の指標である「歩行者・自転車通行量」は、前年度と比較して約17%減となり、目標に達しませんでした。

また、県都の玄関口にふさわしい都市環境の形成に向け福井駅東口広場、ひので通り、ひので高架通りを順次供用しましたが、えちぜん鉄道の高架化事業を優先させたために、東口北線や御園通りの整備を完了することができませんでした。来年度は福井駅周辺土地区画整理事業が最終年度です。えちぜん鉄道高架工事の完了後も、えちぜん鉄道の仮線撤去や北陸新幹線の工事が本格化してきますが、鉄道・運輸機構や福井県と十分な協議と調整を行い、全ての工事と必要な手続きの完了を目指します。

来年度は、福井駅周辺土地区画整理事業を終了させ、その上で民間主体のまちづくりへの 支援やハピリンによって生まれた賑わいを中心市街地全体へと波及させるため、福井駅東口 広場、城址周辺及び足羽山の整備を進めながら、商店街などの関係団体と連携強化により中 心市街地活性化を推進します。「県都デザイン戦略」の推進に着実に取り組み、北陸新幹線 福井開業時には県都の顔にふさわしい魅力と賑わいとなっているよう全力で取り組みます。

. 歴史や自然など地域の特性を活かした景観を守り、創り、育て、良好な景観を形成します

県庁線沿線では、まちづくり勉強会をきっかけに、共同化事業に向けた動きも生まれ、地域住民が主体となったまちづくりが進展しつつあります。また、福井城址周辺地区の特定景観計画区域指定に向けた地元説明会を開催しました。今後、景観計画の施行に向けた取組を進めます。

ただ、民間活力による景観形成への支援件数が目標件数を達成することができませんでした。来年度は、チラシの配布先や広報回数を増やすなど広報活動の拡充に努め、NPOや地域団体など様々な活動主体に周知を図るとともに、申請受付期間を十分に確保することで支援件数の増加を図り、県都にふさわしい良好な景観形成に取り組みます。

.人口減少が進展するなか、居住や都市機能の適正な誘導を図り、福井の地域特性に応じた公共 交通ネットワークの構築に取り組むことで、一定の人口密度が維持されたコンパクトなまちづ くりと公共交通が連携した持続可能な都市づくりを推進します

これからの人口減少を見据え、公共交通と連携したコンパクトなまちづくりを進めるため、立地適正化計画の策定を進めており、平成28年度に定めた都市機能誘導区域に加えて、今年度は、立地適正化に関する基本的な考え方や公共交通施策との連携を踏まえ、関係機関との協議や意見聴取を行い、居住誘導区域の素案を作成しました。また、公共交通での市街地への移動利便性を高めるため、鉄道では田原町駅周辺の整備や市役所前(現:福井城址大名町)電停改良を行い、バスでは越前海岸ブルーラインの越廼地区延伸や清水グリーンラインの利用者増加に向けた沿線住民へのアンケート調査を実施し、新規利用者の獲得に向けて地域住民を巻き込んだ利用促進に関する協議を行いました。また、田原町駅においても田原町ミューズの利活用を推進し、文教地区の地域拠点としての賑わいの創出に取り組みます。

しかし、えちぜん鉄道・福井鉄道の乗車人数が目標に達しませんでした。特に、福井鉄道の乗車人数が影響したことから、来年度からの福井鉄道交通圏地域公共交通網形成計画に沿って引き続き支援するとともに、今年度の大雪での経験を踏まえ、県、両鉄道事業者と協力しながら雪に強い鉄道にすることで、乗車人数の増加を目指します。

来年度以降も、市民からの意見を聞きながら立地適正化計画の居住誘導区域を設定するとともに、地元や交通事業者など関係者と連携しながら地域鉄道、路線バスをはじめ、地域が運営主体となる地域コミュニティバス等の運行に取り組むことで、まちづくりと公共交通を両輪とした持続可能な都市づくりに取り組みます。

#### . 交通事故の少ない安全で安心なまちをつくるため、交通安全対策を推進します

福井市交通指導員会などの交通安全推進団体や福井・福井南両警察署などの関係機関と連携し、四季の交通安全市民運動等で交通事故防止活動を実施しました。また、交通安全指導員による交通安全教室を開催し、高齢者や幼児等に対し、交通安全意識の向上に努めた結果、死者数、人身事故件数、傷者数は前年以下に抑制することができました。

高齢者運転免許自主返納事業では、新しく鉄道による支援や啓発イベントの開催を増やすなど返納しやすい環境づくりに努めたことにより、自主返納者数は前年と比べて著しく増加しました。

来年度以降も、引き続き教育効果の高い体験型交通安全教室を中心に体験を通した交通安全普及啓発に重点的に取り組み、交通事故の少ない安全で安心なまちづくりを推進します。 さらに、国体・障スポに向け、交通マナー向上を目指し、市民への啓発を積極的に行います。

### . 関係機関と連携し、高速交通ネットワークである北陸新幹線の一日も早い開業に向け積極的に 取り組みます

北陸新幹線福井駅の利便性及び快適性向上のための要望が、5月の与党整備新幹線建設推進PTの福井駅先行開業等検討会で認められ、10月の国土交通省の工事実施計画(その2)の認可に反映されました。また、京都・大阪ルート沿線である関西圏の自治体向けの研修会を実施することで、関西圏との連携した要望活動の重要性への認識を深める取組を行いました。

整備工事の着実な前進と福井駅舎及び福井駅東口拡張施設の実施設計を進めるため、鉄道・運輸機構、JR西日本など関係機関との協議を重ねるとともに、関西圏等と情報を共有しながら、全線フル規格での整備が一日も早く実現するよう取り組みます。

市民・来街者の身近な移動手段である自転車を都市交通の一つとして再認識し、自転車を利用して安全で快適に移動できるまちをつくります

市街地における自転車走行空間整備として、東大通りと松本通りにおいて歩道内に自転車通行区分の路面標示の設置や、サイクルアンドライド推進として、福鉄ベル前駅に自転車駐車場を整備しました。また、自転車の利用促進と利便性の向上のため、企業を対象としたサポーターの認定事業やまちなかレンタサイクル「ふくチャリ」、「自転車の駅」の増設、福井駅東口周辺の仮設自転車駐車場の整備に取り組みました。

しかし、「ふくチャリ」の利用数が目標に達しなかったことから、来年度は借りたい人が確実に利用できるよう、特に利用者の多い日には、利用者の多いポートに「ふくチャリ」を多く配置するなど効率的効果的な運用に取り組みます。

今後も、国体・障スポや北陸新幹線福井開業に向けて、多くの市民や来街者が自転車を楽しく、安全快適に利用していただけるよう様々な事業に取り組むとともに、市内サイクリングマップの作成や自転車走行空間のネットワーク化の事業にも取り組みます。

. 行政課題の解決に向けて、調査・分析力を高め、各種統計調査の積極的な利活用を図るとともに、公共データの活用を促進するため、積極的に行政情報を提供します

公共データは市民共有の財産であるという意識の下、市民にとって興味深く、利用分野が多いと思われるデータを精査し、本市ホームページの「オープンデータパーク」に掲載することで、誰もが自由に公共データを使用できる環境の充実に努めました。また、Wi-Fi(無線LAN)においては、使用可能エリアを市政広報やリーフレットの配布などで市民に周知したことや、前年度より利用者が増加しました。

一方、各種行政課題の解決には、統計情報の有効活用が重要となってくることから、職員が利用するデータベース「データの広場」の充実を図るとともに、職員の調査分析力を高めるため職員研修を実施し、データ分析方法などについての相談や支援を行うことでデータ利活用の促進を図りました。

来年度も、公共データの活用を推進するため、市民及び市職員に対して積極的に行政情報 を提供します。

. 適切で合理的な公共事業推進のため、監督職員の施工体制点検を通して公共工事の品質確保に 努めます

今年度は2件の工事で工事監察の指摘を受けました。今後は、都市戦略部で指摘されたことだけでなく、他の部署で指摘されたことも部内で十分検証し、部全体で職員の技術力の向上に努めます。また、適切な時期に工事現場の施工体制の点検を行うことで、適正な工事の執行と品質の確保を行っていきます。

.次代に向けた県都の顔にふさわしい魅力と賑わいを創出するため、多様な都市機能の 集積やハピリンによって生み出された新たな賑わい、まちなかにあふれる緑を活かし ながら、民間のまちづくりを支援し、「県都デザイン戦略」を推進します

1 民間主体のまちづくりへの支援

達成度



#### 実 行 内 容

計 北陸新幹線福井開業を控えた県都の玄関口である福井駅周辺や城址周辺において、魅力ある市街地環境の整備を図るため、その具体的な整備方針や手法等を示す福井駅・城址周辺地区市街地総合再生計画を策定し、民間主体の再開発や共同建替えへの支援を行います。

#### 優良建築物等整備事業

中央1丁目10番地区

・解体工事着手(8月)

中央1丁目18番地区

取組

内

容

- ・解体工事着手(8月)
- ・景観デザイン調整委員会開催(9月)
- ・建築工事着手(10月)

駅前電車通り北地区

- ・準備組合設立(8月)
- ・理事会開催 (14回)(8~3月)

福井駅・城址周辺地区市街地総合再生計画

- ・資料収集、現況整理(4~9月)
- ・関係機関、再開発準備組織等への説明(10~12月)
- ・計画策定(1月)

H 1 1 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2								
	数 値	指	標					
目標			結	果	•	成	果	
民間主体によるまちづくりへの支援件	数	民間主体	体によるま	ちづく	りへ	の支持	爰件数	
: 3件(優良建築物等整備への支援	含む)	: 2件	- (優良建第	真物等	整備	への支	支援含む)	
優良建築物等整備への支援 : 2件		優良建築	<sup>換物等整備</sup>	への支	援	: 2	2件	
福井駅・城址周辺地区市街地総合再生	計画の策定	福井駅・	城址周辺	地区市	街地	総合国	再生計画 <i>σ</i>	)策定
: 1月		1: 1月						

成果・

課

題

優良建築物等整備事業について、中央1丁目10番地区は、8月から解体工事に着手しており、平成30年度夏に建築工事着手、平成31年度末完成予定です。今年度に入り事業区域の拡大があり、完成時期が遅れることが想定されますが、早期完成を目指し、事業推進を図るよう支援します。中央1丁目18番地区は、10月に解体工事が完了し、建築物工事に着手しており、平成30年11月に完成予定です。駅前電車通り北地区については、準備組合を8月に設立しましたが、関係者の調整に時間を要したことから、民間主体によるまちづくりへの支援件数が目標に達しませんでした。来年度は、準備組合に対して状況に応じた相談、支援等を強力に行います。

また、現在進んでいる民間主体のまちづくりに対する国からの補助を確実なものにしていくため、福井駅・城址周辺地区市街地総合再生計画を平成30年1月に策定しました。

今後も、北陸新幹線福井開業を見据え、民間主体のまちづくりが進むよう、国の都市再生緊急整備地域の指定を受けることなど民間再開発事業における民間側の財源等が確保しやすい環境にしていきます。

#### 福井駅周辺の整備の推進(福井駅周辺土地区画整理事業の推進)

達成度



#### 実 行 内 容

目

標

組

内

容

福井駅周辺土地区画整理事業では、えちぜん鉄道高架化工事が進捗し、北通り東口線や 11-1 号線(通称観音町通り)を整備したことにより東西交通の円滑化が図られたところです。

県都の玄関口にふさわしい都市環境の形成、東西交通の円滑化と市街地の均衡ある発展を図るため、現在県が進めているえちぜん鉄道の高架化事業にあわせ、福井駅東口広場の自家用・タクシー乗降場の完成や道路整備等を行い、平成30年度完了に向け事業を推進します。

#### 土地区画整理事業計画

- ・換地計画作成業務 発注(10月)
- ・事業計画変更業務 完了(3月)

#### 取 整備工事

エニチ

- ・ひので通り工事 完成(7月)
- ・融雪さく井その1工事 完成(9月)
- ・融雪さく井その2工事 完成(9月)
- ·日之出公園工事 発注(11月)
- ・東口御園通り工事 発注(1月)
- ・東口北線工事 発注(2月)
- ・道路情報表示板設置工事 発注(3月)
- ・東口広場第3期工事、ひので高架通り工事、歩-1号線、1号公園工事 完成(3月)

	数	値	指	標						
目	標			結	果	•	成	果		
進捗率			進捗率							
: 92.7% (28年度)	99.3%(29年度)		: 98.6%							

福井駅周辺土地区画整理事業は平成30年度の事業完了に向け、福井県が施行するえちぜん鉄道高架化工事と協議、調整を行いながら、ひので通り、ひので高架通り、東口広場などの整備工事を進め、順次供用を開始してきました。

成果

しかし、平成30年6月に切替えを予定しているえちぜん鉄道高架化工事のために、日之出公園、東口御園通り、東口北線の用地を資材のストックヤードや足場等の工事用地として使用してきたため、工事に遅れが生じ、今年度の目標を達成することができませんでした。

来年度は最終年度であることから、すべての工事を完成させ、換地処分などの手続を完了させなければなりません。しかし、えちぜん鉄道高架工事の完了後も、えちぜん鉄道の仮線撤去や北陸新幹線の工事が本格化してくるため、関係機関(鉄道・運輸機構、福井県)と十分な協議と調整を行うことにより、着実な事業完了を目指します。

課題

#### 3 中心市街地活性化の推進

達成度



#### 実 行 内 容

国体・障スポの開催や北陸新幹線福井開業など、まちなかの賑わいと人の交流を創出する好機が訪れ ています。

目標

ハピリン開業による新たな賑わいをまちなか全体へと波及させるため、周辺施設や関連団体とさらに連携を密にし、中心市街地全体で連動したイベントや回遊性を高めるイベントの開催により、中心市街地の活性化を推進します。

中心市街地活性化協議会及び中心市街地活性化マネジメント会議

- ・第28回協議会会議(定期フォローアップ)(5月)
- ・第24回マネジメント会議(定期フォローアップ、第2期中活終了後の方向性)(5月)
- ・第25回マネジメント会議(第2期中活期間終了後の推進体制)(10月)
- ・第26回マネジメント会議(市長提言について)(11月)
- ・第27回マネジメント会議(最終フォローアップ案)(2月)

ハピリン(にぎわい交流施設)事業

- ・指定管理者による指定事業(毎月)
- ・定期的に地元情報誌や観光情報誌等に特集記事掲載(随時)
- ・開業1周年記念イベント(5月)

内容

取

組

- ・バックステージ見学ツアー(市)(8月)
- ・プロジェクションマッピング(市)(12月)
- ・すまいるスケートハピリンク(12~2月)

モール販売促進事業

- ・ハピリンモール1周年感謝祭(4、5月)
- ・モールテナント紹介映像制作放映 (大型ビジョン) ハピリンおかえりな祭 (夏) (ガラガラ大抽選会) (8月)
- ・プロジェクションマッピングコラボ企画(12月)
- ・ハピリンおかえりな祭(冬)(ガラガラ大抽選会)(1月)

数	値	指	標				
目標			結り	Ę	・成	果	
入込客数 : 250 万人		ハピリン入込	字数	:	279 万人		
ハピリン来場者数 : 50万人		ハピリン来場					
歩行者・自転車通行量		歩行者・自転	車通行量				
:38,947人(28年度) 48,500人(2	9 年度)	: 32,332人					

成果

今年度の中央1丁目における歩行者・自転車通行量は32,332人で、ハピリンが開業した昨年度(38,947人)と比べると約17%減となり、目標を達成することができませんでした。ハピリンの入込客数は増加していることから、その効果がまだ周辺に波及するまでには至っていないと考えられます。歩行者通行量は、ハピリンでのイベントをはじめ駅周辺で開催されるイベントによって大きく変動することから、今後、常時魅力的なイベントが開催されるよう関係機関と協議していきます。

課

題

また、新幹線開業まで福井駅周辺で工事が集中することが予想されますが、新たに生まれた賑わいを 絶やさず、多くの方々に中心市街地にお越しいただけるよう、周辺施設や関連団体と連携を密にし、中 心市街地全体で連動したイベントの開催など、更なるにぎわい創出に努めていきます。

#### 「県都デザイン戦略」の推進 4

達 成 度



#### 実 行 内 容

「県都デザイン戦略」に基づき、駅から城址をつなぐ県庁線整備後、引き続き中央公園に誘うための 城址周辺道路の工事に着手します。

目 標

取

組

内

また、まちなかにある足羽山及びその周辺において身近に出会える文化資源の魅力向上を図るため、 前年度策定した足羽山魅力向上計画に基づき、水道記念館の利活用の検討、三秀公園の再整備に向けた 基本構想を策定します。

#### 城址周辺道路整備

- ・歩道の整備工事着手(8月)
- ・消融雪設備(さく井)工事完成(1月)
- ・消融雪設備(機械)工事完成(3月)
- ・車道整備(舗装・散水)工事契約(3月)
- ·県庁前交差点舗装工事契約(3月)

水道記念館利活用検討案

- ・利活用について、市関係部局と協議
- ・利活用検討案の作成(12月)

容 三秀公園再整備基本構想

- ・地域自治会との第1回検討会開催(市の計画や街区公園設計時の基本事項説明)(8月)
- ・第2回検討会(地元意見の集約と市の方針に関する意見交換)(11月)
- ・地元関係者との意見交換(市の計画と地元要望の調整方法、スケジュールの確認)(12月)

	数	Ż	値	指	標					
目	標				結	果	•	成	果	
城址周辺道路の工事着手	:	9月		城址周辺道	路の工事	着手		:	8月	
水道記念館利活用検討案作成	:	12月		水道記念館	利活用楨	討案	作成	:	12月	
三秀公園再整備基本構想策定				三秀公園再	整備基本	構想	策定	:	策定中	

城址周辺道路工事については、予定より1ヵ月早く工事に着手することができたため、隣接するビル の解体及び駐車場の整備が行われている中、歩道整備工事は3月末に完成しました。車道舗装工事は国 体・障スポ前に完成予定です。

成

水道記念館利活用検討案については、様々な制約がある中で、土地・建物の所有者である企業局との 調整を行いました。来年度は、歴史的建築物である水道記念館を活かした賑わいとくつろぎを創出する ため、関係機関と地元を含めて検討しながら設計業務を進めていきます。

三秀公園再整備基本構想については、足羽山・足羽川周辺空間形成基本構想において、歴史資源を活 かして地域の魅力を高め、市民や観光客が楽しく、快適に散策できる環境づくりを目指すとしているこ とから、この地域に点在する歴史資源の活用方法や周辺の散策拠点としての回遊性を高める活用手法に ついてさらに検討を進めるため、基本構想の策定を延長することとしました。

課

歴史や自然など地域の特性を活かした景観を守り、創り、育て、良好な景観を形成し ます

県都にふさわしい良好な景観形成

達 成 度



行 容 寠 内

目 標

取

内

容

5

前年度設立した福井城址通りを考える会とともに、県庁線沿線の景観づくりの検討を行い、建物の デザインや敷地内の建物の配置といった景観形成のルールを作成することで、城址と一体となった、 歩いて楽しいまち並みの実現に向けた景観誘導を推進します。

また、福井城址地区における特定景観計画区域の追加指定や、民間活力による県都にふさわしい景 観形成の支援に取り組みます。

民間活力による県都にふさわしい景観形成

- ・第1次募集(申請3件、交付2件)(4、5月)
- ・第2次募集(申請1件、交付0件)(7、8月)
- ・第3次募集(申請1件、交付1件)(10、11月)

#### 県庁線景観まちづくり 組

- ・第1回勉強会の開催(7月)
- ・第2回勉強会の開催(11月)
- ・第3回勉強会の開催(2月)

#### 福井城址地区

- ・福井市景観審議会(追加指定案の中間報告)(7月)
- ・地元説明会の開催(11月)

数值	指標
目標	結果・成果
民間活力による県都にふさわしい景観形成への支	民間活力による県都にふさわしい景観形成への支
援 : 6件	援 : 3件
県庁線沿線におけるまちづくり勉強会の開催	県庁線沿線におけるまちづくり勉強会の開催
: 2回	: 3回
福井城址地区における特定景観計画区域に係る地元	福井城址地区における特定景観計画区域に係る地元
協議の開催	協議の開催

成

果

民間活力による県都にふさわしい景観形成については支援件数が 3 件と目標を達成することがで きませんでした。来年度は、チラシの配布先や広報回数を増やすなど広報活動の拡充に努め、NPO や地域団体など様々な活動主体に周知を図るとともに、申請受付期間を十分に確保することで支援件 数の増加を図ります。

県庁線沿線においては、まちづくり勉強会をきっかけに、共同化事業に向けた動きも生まれ、地域 住民が主体となったまちづくりが進展しつつあります。勉強会においては、ソフト事業を通じた景観 づくりや魅力向上について意欲的な意見交換が行われており、今後はその実現化に向けた支援に取り 組み、官民連携のもと、城址と一体となった、歩いて楽しいまち並みの実現を目指します。

福井城址周辺地区の特定景観計画区域指定に向けた地元説明会を 11 月に開催しました。来年度は、 説明会で挙がった質問等を踏まえ、景観計画の施行に向けて、景観審議会において答申案の審議を進 めていきます。

課

.人口減少が進展するなか、居住や都市機能の適正な誘導を図り、福井の地域特性に応じた公共交通ネットワークの構築に取り組むことで、一定の人口密度が維持されたコンパクトなまちづくりと公共交通が連携した持続可能な都市づくりを推進します

6 立地適正化計画の策定

達成度



#### 実 行 内 容

計一

取

組

内容

画マスタープランとの整合を図りながら、平成30年度までに立地適正化計画の策定を目指します。 平成28年度末に、市街化区域の内側に医療、福祉、商業などの都市機能の立地を誘導する都市機 能誘導区域を定めました。平成29年度には、立地適正化に関する基本的な考え方や地域特性に応じ た公共交通ネットワークの構築を目指す交通施策との連携を踏まえ、居住を誘導する居住誘導区域の 素案を作成します。

これからの人口減少を見据え、公共交通と連携したコンパクトなまちづくりを進めるため、都市計

立地適正化計画の策定

- ・公共交通に関する庁内協議(5月)
- ・立地適正化計画勉強会(国土交通省都市局都市計画課他)(8月)
- ・国との協議(国土交通省都市局都市計画課他)(8月)
- ・第5回立地適正化計画検討専門会議(福井市立地適正化計画の確認等)(10月)
- ・第6回立地適正化計画検討専門会議(居住誘導区域の設定に向けた整理等)(2月)
- ・第34回福井市都市計画審議会(中間報告)(3月)

指	標
計画	結果・成果
居住誘導区域の素案の作成	居住誘導区域の素案の作成

成果

課

題

今年度は、平成 28 年度に定めた立地の適正化に関する基本的な考え方を基に、公共交通施策を踏まえ、国や県との協議、立地適正化計画検討専門会議、福井市都市計画審議会の中で、協議や意見聴取を行い、居住誘導区域の素案を作成しました。

来年度は、今年度作成した素案を基に、パブリック・コメントなど市民の意見聴取などを行い、居住誘導区域を設定します。

#### 適正な土地利用及び街路整備の推進

達成度



#### 実 行 内 容

福井市身近なまちづくり推進条例の制度を活用して、まちづくり組織の活動に対するアドバイザー派遣などを行い、地域の特性を活かしたきめ細かなまちづくりを推進します。

目標

取

組

内

容

今年度は、「町屋まちづくり協会」が主体となり取り組んでいるまちづくり計画の作成を支援します。

また、幹線道路の骨格づくりを推進するため、未整備の都市計画道路について、計画的に整備を進 めます。

まちづくり計画の作成(町屋まちづくり協議会)

- ・まちづくり計画の案や今後の活動方針について協議(6月)
- ・地区住民等にチラシを配布し、署名活動の結果や活動状況を報告(7月)
- ・まちづくり計画の認定申出に向けた協議(9月)
- ・まちづくり計画認定申出書の提出(10月)
- ・身近なまちづくり審議会の開催(11月)
- ・まちづくり計画の認定(12月)
- ・地区住民等にチラシを配布し、まちづくり計画の認定について報告(12月)

都市計画道路の計画的な整備に向けた取組

- ・(都)ひので通りの完成(7月)(都)九頭竜通り線の完成(8月)
- ・(都)大手日之出線の完成(9月) ひので高架通りの整備(3月)

数值	指標
目標	結果・成果
町屋まちづくり計画の作成	町屋まちづくり計画の作成
都市計画道路整備率	都市計画道路整備率
: 82.9%(28年度) 83.3%(29年度)	: 83.3%

まちづくり計画の作成に向けて、計画案をはじめとする認定に必要な資料作成や町屋まちづくり協議会の今後の活動方針について協議を行ってきました。

成果

町屋まちづくり協議会より、現在の良好な住環境を将来にわたり守っていくためのまちづくり計画について、認定申出書が提出されたため、身近なまちづくり審議会を開催し、意見聴取を行いました。 身近なまちづくり審議会において、異議のない旨が答申されたため、まちづくり計画として認定し、 計画作成が完了しました。

今後は、まちづくり計画の推進を図るため、用途地域の変更、地区計画の策定などに向けた活動を開始します。

課題

また、平成 28 年度にまちづくり計画の認定を受けた一本木地区の未来を考える会においては、用途地域の変更に向けた手続を進めていきます。

福井駅周辺土地区画整理事業区域内の(都)ひので通りや森田北東部土地区画整理事業区域内の(都)九頭竜通り線が完成し、都市計画道路の整備率が進捗しました。引き続き、目標達成を目指し計画的な整備に努めていきます。

#### 地域鉄道の利用促進と利便性の向上

達成度



#### 実 行 内 容

福井鉄道とえちぜん鉄道について持続的な運行支援を行います。

目標

取

組

内

容

昨年、運行を開始した相互乗り入れ及び福井鉄道駅前延伸により、利便性が向上したことから、大幅に利用者が増えました。今年度は、市役所前電停を改良し、乗継や乗降時の安全性を向上させることで、運行の定時性を確保します。また、田原町駅周辺の整備にあわせ、コンベンション機能に加え、福祉機能を有することとなったフェニックスプラザと田原町駅の間をバリアフリー化するためのシェルターを設けるなど、利用者の利便性を高めます。

併せて、地域住民や沿線自治体等と連携した利用促進活動に取り組み、更なる利用者の増加を目指します。

#### 福井鉄道及びえちぜん鉄道運行支援

- ・各鉄道事業者毎の形成計画に基づき、修繕や施設整備・改善、及び鉄道運行を支援
- ・平成30~34年度を計画期間とする「福井鉄道交通圏地域公共交通網形成計画」を策定(3月) サポーターズクラブ、サポート団体の支援
- ・サポーターズクラブの通年加入募集・受付【えちぜん鉄道】(通年)
- ・サポート団体による福武線の利用促進事業を4コース企画【福井鉄道】(9~10月)

#### 田原町駅周辺整備

・多目的待合施設(田原町ミューズ)供用開始(1月15日)

- ・フェニックスプラザと田原町駅南広場間シェルター建築工事完了(3月)
- ・田原町駅周辺整備全体完了(3月)

市役所前電停改良

- ·電停供用開始(12月11日)
- ・全体工事は平成30年4月完了予定

	数	値	指	標				
目	標			結	果	•	成	果
えちぜん鉄道・福井鉄道の乗車	[人数		えちぜん鋭	扶道・福井	‡鉄道	の乗	人車	数
: 560万人			: 559万/	人(見込る	<del>ን</del> )			
田原町駅周辺整備工事完了			田原町駅周	]辺整備]	事完	了		
市役所前電停改良工事完了			市役所前電	『停(現:	福井	城址	上大名	8町電停)改良工事
			: 未完了	7				

成 果 えちぜん鉄道・福井鉄道相互乗入れ関連施設である田原町駅周辺の整備としては、様々なイベントが行える多目的待合施設(田原町ミューズ)が1月に供用開始され、フェニックスプラザと田原町駅南広場間のシェルター建築工事、駅周辺広場整備工事が3月に完了しました。これらにより、相互乗入れ関連施設が全て供用開始されたことから、より鉄道利用者等の利便性が向上します。次年度は、「田原町ミューズ」の運営を地域と連携強化して進めるとともに、広報活動を強化することで利用者の増加に取り組みます。

課

題

乗車人数について、福井鉄道の路面軌道区間工事により、9月から2月までの土休日等に花堂駅から田原町駅までバスによる代行輸送を行ったことや大雪による影響で、乗車人数は当初目標に至りませんでした。

同じく関連施設の市役所前電停(現:福井城址大名町電停)については、12月11日に供用開始され、乗降時や待合時の利便性を向上させる目的は達成できました。大雪の影響により遅れた旧電停解体等の工事については、4月末に完成の予定です。

#### バス路線の維持と地域実情に応じたバス交通サービスの確保

達成度



#### 実 行 内 容

人口減少が進展するなか、交通事業者や地域住民等と連携し、バス路線の維持やサービスの提供により市民の移動利便性の確保に努めることで、バス利用者の減少をくい止めます。

目標

また、公共交通空白・不便地域等において地域実情に応じた交通手段を確保するため、地域バスの運行や地域コミュニティバス等の運行支援、バス路線の再編等を行います。

さらに、清水グリーンライン線沿線住民に対しては、アンケート調査を実施し、その結果を踏まえて利用者の掘り起こしを行い、バス利用を促進していきます。

バスの利用を促進するための取組み

- ・地域コミュニティバスの新たな運行を検討する地域での勉強会の開催(5月~)
- ・地域コミュニティバスの検討組織を新たに設立(8月:東郷、10月:森田)
- ・「文殊山号」の利用状況に関するアンケート調査の結果に基づき、7 月に乗降場所を 6 箇所追加 し、2 年間の社会実験終了後、本格運行開始(10月)

取組

内

容

- ・鮎川線沿線地域で実施しているバストリガー制度の対象に越廼地区が加わったため、越廼地区まで延伸し新基準にて再度実施(10月) 鮎川線は観光利用者の増加を狙い「越前海岸ブルーライン」へ改称
- ・路線バス茱崎線の減便及び一部デマンド化による効率化の実施(10月)
- ・平成 30 年 4 月実施予定の路線バス再編に向けた地元説明を事業者と共同実施(12 月~)

清水グリーンライン線沿線でのバス利用者の掘り起こし

- ・沿線住民へのアンケート調査票の作成及び配布(5月)
- ・清水地域において今後のバス交通サービスについて考える協議会の設立を協議(7月)
- ・アンケート調査の集計(10月)
- ・アンケート結果を活用した協議会との勉強会を開催(12月)
- ・希望者への情報提供とマイ時刻表作成の提案(3月)

	数	値	指	標					
目	標			結	果	•	成	果	
バス乗車人数 : 290万人 清水グリーンライン線沿線住民 の実施 : 5月	へのアンク	「一ト調査	バス乗車人数 清水グリーン の実施	ライン		緣住			卜調査

バス乗車人数については、大雪により約2週間の運休期間があったものの、沿線住民や事業者とバスについて話し合う機会を設け、バストリガーなど「乗って残す」取組を行った結果、目標達成が見込まれます。

成果

今後も、効率化を図るための路線の再編が行われる予定です。事業者と連携して沿線の方に対して 丁寧な説明、周知広報を行い、利用促進を実施することで利用者の増加を図ります。

また、アンケート調査については、10月に集計を行い、集計結果を元に清水地区住民・事業者・ 行政の三位一体の利用者増加に関する協議を12月に行いました。さらに、利用促進の取組みとして、 3月にアンケート回答者のうち、希望者に対して路線バスの情報の送付や、マイ時刻表作成の提案な どを行いました。

課

題

次年度は、バスのあり方や利用促進策について、地域住民・事業者と協議するとともに、アンケート結果によると多くの潜在需要がある「買い物」「娯楽・食事」利用などについて、大学と連携し、詳細な実態調査や利用方法の提案を行うなど、利用者の掘り起こしに努めます。

#### 市営駐車場の適正な運営

達 成 度



実 行 内 容

目

取

組

内

容

10

安全かつ快適に市営駐車場を利用できるよう、施設の修繕等を計画的に実施し、指定管理者ととも に利用促進の取り組みを行い、適正で効率的な運営を図ります。

#### 標

#### 維持管理

- ・料金徴収設備の更新業務発注(大手)(6月)
- ·動力盤内電気部品修繕発注(本町)(6月)
- ・駐車券紛失対策システムの更新業務発注(本町)(9月)
- ・防水板修繕発注(本町)(9月)
- ・吹付材補修発注(大手)(11月)
- ・昇降横行駆動部修繕発注(大手第2)(11月)
- ・台車パレット移載モータ、各インバータ修繕(本町)(12月)
- ・エレベーターガラス修繕発注(本町)(12月)

#### 利用促進

- ・「ふくい春まつり駐車 30 分無料サービス」実施(本町)(4月)
- ・駐車促進キャンペーンの実施(本町)(8月)
- ・駐車場案内チラシの街頭配布(本町)(12月)

	数	値	指	標					
目	標			結り	果	•	成	果	
大手・大手第 2・本町通り地下駅 : 59 万台	主車場の利用 行	台数		32・本町 台(見込		地下	「駐車	基場の利用台数	

成

き、回転率が低下したと考えられます。特に回転率の高い大手駐車場の利用台数が減少したため、利 用台数は目標に届きませんでした。 果

次年度は本町通り地下駐車場において新たな利用促進策を実施するとともに、適切な維持管理に努 め、快適な駐車場サービスの提供を行います。

駐車場利用者が安全かつ快適に利用できるよう、施設の修繕など適正な維持管理に取り組みまし た。3 箇所の駐車場全てで利用台数は順調に推移しましたが、2 月の大雪期間中は、周辺の屋外駐車 場利用者が立体駐車場である市営駐車場に移ったことにより、3 箇所の駐車場で朝から満車状態が続

課

#### . 交通事故の少ない安全で安心なまちをつくるため、交通安全対策を推進します

11 | 交通安全対策の推進

達成度



実 行 内 容

交通事故を未然に防止するため、交通安全推進団体や関係機関と連携して、四季の交通安全運動を はじめとする交通安全普及啓発事業を実施します。

目標

取

組

内

容

また、各地域の高齢者や幼児・児童を対象にした交通安全教室では、教育効果の高い体験型教室の 回数を増やし、市民一人ひとりの交通安全意識の向上を図り、交通事故の少ない安全で安心なまちづ くりを推進します。

さらに、平成30年開催の国体・障スポに向けて、県や警察、国体推進部等と連携し、「おもてなしの第一歩」としての交通マナーの向上を図ります。

交通安全推進団体等と連携した交通安全普及啓発活動

- ・四季の交通安全市民運動の実施(春、夏、秋、年末)
- ・福井市にぎわい交流施設「ハピテラス」において、『交通安全広場』の開催(4月)
- ・アオッサ8階 県民ホールにおいて、『高齢者交通安全大会』の開催(8月)

高齢者や幼児・児童等を対象にした交通安全教室実施(随時)

幼児: 79 回 4,103 人、児童: 29 回 697 人、高齢者: 87 回 3,962 人、その他: 39 回 361 人、

合計:234回9,123人(うち体験型:92回4,121人)

国体・障スポ開催に向けた交通マナー向上

・市政広報ふくいに記事掲載(4月10日号、5月10日号)

・啓発チラシの配布(交通安全普及啓発活動時や商工会議所イベント等のほか、交通安全関係団体、 老人クラブ等に配布)

・啓発ポスターの掲示 (交通安全関係団体、公民館、保育園・幼稚園等)

数値<指標</th>目標結果・成果体験型交通安全教室回数体験型交通安全教室回数: 92 回: 89回(28年度)100回以上(29年度)

成

果

体験型交通安全教室については、重点的に実施したことにより、昨年度以上のペースで開催しましたが、2月に予定していた教室が大雪で中止となったため、目標の達成には至りませんでした。今後も引き続き、教育効果の高い体験型教室を中心に交通安全教室を実施するとともに、交通安全推進団体や関係機関と連携して、四季の交通安全運動をはじめとする交通安全普及啓発事業を実施することで、交通安全の啓発に努めます。

また、次年度は国体・障スポが開催されることから、交通安全推進団体や関係機関、警察等と連携し、街頭啓発を実施するなど「おもてなしの第一歩」としての交通マナー向上に一層取り組むとともに、開催期間中は、交通指導員による交通整理などを行い、交通事故防止に努めます。

課

#### 12 高齢者の交通事故縮減

達成度



実 行 内 容

目

取

組

内

容

高齢者向けの交通安全教室の開催等により、高齢者の交通安全意識の向上を図るとともに、高齢者の交通事故の縮減に努めます。

また、高齢者の交通事故を防止するため、高齢者運転免許自主返納に関する出前講座や啓発イベント等を開催するとともに、交通安全推進団体や関係機関と連携して啓発に努めることで運転免許の自主返納を促します。

高齢者の交通安全意識の向上

- ・高齢者を対象にした交通安全教室の実施(随時)
- ・アオッサ8階 県民ホールにおいて、『高齢者交通安全大会』の開催(8月)

高齢者運転免許自主返納支援事業

- ・高齢者運転免許自主返納支援事業の実施(随時)
- ・代理人手続きの受付開始(7月)
- ・福井鉄道、えちぜん鉄道利用支援の追加(1月)
- ・美山・越廼・清水総合支所での申請受付開始(1月)
- ・運転免許自主返納啓発イベントの開催(パリオ9月、すかっとランド九頭竜10月、エルパ1月)
- ・高齢者運転免許自主返納支援事業のチラシ全戸回覧(6月、12月)
- ・公民館での運転免許自主返納に関する出前講座等の実施(随時)(17地区)

高齢者運転免許証自主返納者数

:545人(28年) 570人以上(29年)

| 高齢者運転免許証自主返納者数 : 839 人

高齢者運転免許自主返納について、代理人手続きの受付開始や美山・越廼・清水総合支所での申請受付開始などの制度の改善、福井鉄道、えちぜん鉄道利用を支援に加えたことによる選択肢の拡充に加え、イベントや出前講座の開催などで返納の啓発に努めたことにより、目標を達成することができました。

成果

次年度は、支援手続きについて郵送受付を開始するなど、支援事業を更に利用しやすいものとしていくとともに、高齢者が集まる場所での啓発イベントの開催や、交通安全教室、出前講座などの実施により、高齢者の運転免許自主返納を促し、交通事故の縮減に努めます。

課

# . 関係機関と連携し、高速交通ネットワークである北陸新幹線の一日も早い開業に向け 積極的に取り組みます

13 北陸新幹線の建設促進

達成度



#### 実 行 内 容

北陸新幹線については、前年度末、与党整備新幹線建設促進プロジェクトチームで敦賀・大阪間のルートが決定され全線ルートが確定しました。関係機関と一体となって一日でも早い敦賀までの開業と大阪までのフル規格での整備に取り組みます。

また、福井駅舎のデザインについては、関係機関と連携し、利便性及び快適性の高い駅となるよう調整するほか、鉄道・運輸機構から示されるデザイン素案を基に、市民の意見を踏まえ決定します。 さらに、平成34年度開業予定の並行在来線の開業準備を関係機関と連携し進めます。

#### 新幹線建設促進に係る取組

- ・北陸新幹線関係都市連絡協議会 総会(新潟県糸魚川市)(5月)
- ・福井県北陸新幹線建設促進同盟会 総会(福井県自治会館)(5月)
- ·北陸新幹線建設促進大会(東京都)(5月)
- ・福井市北陸新幹線建設促進協議会 総会 (ハピリンホール)(5月)
- ・北陸新幹線関係都市連絡協議会 中央要望(7月)
- 取・市重要要望及び市協議会 中央要望(7月)
  - ・北陸新幹線関係都市連絡協議会 総会(石川県輪島市)(10月)
  - ・北陸新幹線関係都市連絡協議会 中央要望(11月)
  - ・北陸新幹線関係都市連絡協議会 北陸新幹線研修会(京都府京都市)(2月)

#### 福井駅整備に係る取組

容

組

内

目

標

- ·与党整備新幹線建設推進 PT 第 24 回「福井駅先行開業等検討員会」(東京都)(5月)
- ・国土交通省 工事実施計画(その2)認可(10月)
- ・第5回北陸新幹線福井駅舎デザインコンセプト検討会(3月)
- ・福井駅舎デザイン推薦案を鉄道・運輸機構へ報告(3月)

#### 並行在来線の開業準備

- ·福井県並行在来線対策協議会幹事会(4月)
- ・福井県並行在来線対策協議会による収支予測調査に基づく関係会議(10 月、11 月、3 月)

	数	値	指	標					
目	標			結	果	•	成	果	
並行在来線関連調査実施			並行在来級	。 関連調2	<b>上</b> 実施	į			
福井駅舎デザイン決定			福井駅舎ラ	゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙	决定				

新幹線建設促進のため、2月に経済団体と合同で関西地域向けの研修会を実施したことより、関西地域との連携を深めることができました。今後も、関西地域と連携を強化しながら、関係機関と一体となって一日も早い大阪までのフル規格での整備や財源確保について、国に強く要望していきます。北陸新幹線福井駅の推薦デザイン案と附帯意見を決定し、鉄道・運輸機構へ報告しました。今年度の福井駅舎及び福井駅東口拡張施設の基本設計を踏まえ、来年度は関係機関と協議を重ねながら、実施設計を進めます。

成果

並行在来線については、福井県並行在来線対策協議会による収支予測、経営基本調査及び来年度に 策定される経営・運行に関する基本方針をもとに、沿線市町と開業準備に必要な協議を進めます。

課

市民・来街者の身近な移動手段である自転車を都市交通の一つとして再認識し、自転車を利用して安全で快適に移動できるまちをつくります

#### 14 | 自転車走行空間整備の推進

達成度



実 行 内 容

目 自転車が安全で快適に走行できるよう、自転車走行空間のネットワーク化を進めます。

今年度は、県道に接続する通勤通学者の多い市道で、歩道内に自転車通行区分のための路面標示を 標 行います。

自転車走行空間整備(東大通り、松本通りにおける自転車通行区標示)

- ・現地調査(周辺道路の状況確認)(4月)
- ・福井市通学路安全プログラム関係所属会議(5月)
- ・公安委員会(県警交通規制課) 福井警察署交通第二課との協議(6月)
- ・福井市通学路安全推進会議(7月)
- ・高志高校への事業説明(8月)
- ・路面表示設置工事発注、施工開始(9月)
- ・路面表示設置工事完了(10月)

	数	値	指	標			
目	標			結 果	・成	果	
自転車通行区分の路面標示	: 10月		自転車通行	ア区分の路面標	示 :	10 月	

市中心部の通勤通学者の多い東大通りと松本通りで、歩道内にライン引きや自転車マークの路面標示で自転車通行を区分したことで、歩行者と自転車の安全性の向上を図ることができました。今後は、JR福井駅周辺や高校生の自転車利用の多い路線を重点的に整備する計画を策定し、自転車走行空間のネットワーク化を図ります。

果・課

題

成

取

組

内容

また、郊外においては、平成28年度に大東中学校のモデル事業で安全性の向上が図られたことから、他の自転車通学の多い中学校においても整備を進めます。

#### 15 自転車の利用促進と利便性の向上

達成度



	/—		
実	行	内	容
_	11	<i>I I I I I I I I I I</i>	
~	13	rs	

目標

取

組

内

容

自転車の利用促進の啓発に向けて、自転車利用サポーター認定事業を推進します。 また、まちなかでの利便性や回遊性の向上を図るため、まちなかレンタサイクル「ふくチャリ」事 業や自転車の駅の設置に取り組みます。

#### 自転車利用サポーター

- ・サポーター認定企業やその取り組み内容をホームページで紹介(4月~)
- ・サポーター実績報告書提出依頼(7月~)
- ・認定企業の追加登録に向けたPR活動

まちなかレンタサイクル「ふくチャリ」

- ・フェイスブックを活用した情報発信(4回)
- ・スタンプカードの運用(4月~)
- ・幸-FULL チケットとの連携 (4~8月)
- ・クイズラリーの実施、お試しライドの実施、交通安全広場への出展(4月)
- ・パンフレットの作成(6月)
  - ・スタンプラリーの実施(8~10月)
  - ・広報活動 (Fu、URALA、ぷりん)(8、9月)
  - ・イベント等でのPR活動
  - ・フェイスブックや情報誌掲載等での広報活動
  - ·幸-FULL チケットと企画の連携(10~3月)

数值	指標
目標	結果・成果
自転車利用サポーターの認定団体数(累計)	自転車利用サポーターの認定団体数(累計)
: 50 社 (28 年度) 55 社 (29 年度)	: 55 社
ふくチャリの自転車利用数	ふくチャリの自転車利用数
: 6,134回(28年度) 6,300回(29年度)	: 6.059回

自転車利用サポーターを増やすため、積極的に自転車利用に取り組む企業を訪問することで、認定 団体数の目標を達成することができました。今後も、通勤や移動手段として、自転車利用について企 業や団体に対してサポーター事業への理解と協力を働きかけ、自転車利用の拡大を図ります。

まちなかレンタサイクル「ふくチャリ」は、昨年と比べて10月の雨天、1月、2月の大雪など自転車利用に不向きな気象状況となったことから、目標の達成とはなりませんでした。今後は、利用者が多い土・日・祝日にポート間の自転車の効率的運用を図ることで、市民や観光客にとってより使いやすい「ふくチャリ」に努めます。

# 成果

課

#### 新 サイクルアンドライド事業の推進

達成度



実 行 内 容

目

人や環境にやさしい交通手段である自転車と鉄道などの公共交通機関と合わせて利用するサイクル アンドライドを推進するため、鉄道駅に自転車駐車場を整備します。

#### 標

取

組

内

容

#### 福鉄ベル前駅自転車駐車場整備

- ・福鉄と整備について協議(収容台数45台、屋根整備)(4月)
- ・県補助金要望書提出(5月)
- ・県交通まちづくり課へ重要要望の説明(6月)
- ・整備場所について鉄道事業者と現場立会い(7月)
- ·県補助事業採択決定通知(8月)
- ・県補助金交付申請、決定通知(8月)
- ・福鉄と業務委託契約締結(9月)
- ・福鉄ベル前駅自転車駐車場整備着手(10月)
- ・福鉄ベル前駅自転車駐車場整備完了、供用開始(1月)

 数値
 指標

 目標
 結果・成果

 鉄道駅自転車駐車場整備箇所 : 1箇所

 鉄道駅自転車駐車場整備箇所 : 1箇所

福鉄ベル前駅に自転車駐車場を整備し、1月から供用開始しています。サイクルアンドライドを推進するためには、鉄道駅自転車駐車場の利用環境の改善が有効であることから、今後も関係機関と協議しながら、計画的に施設改善や改修整備を行うとともに、鉄道事業者と連携し、放置自転車の撤去等を行い自転車駐車場の適正な施設管理に努めることで利用者の増加を図ります。

# 果・課題

成

. 行政課題の解決に向けて、調査・分析力を高め、各種統計調査の積極的な利活用を図 るとともに、公共データの活用を促進するため、積極的に行政情報を提供します

統計調査等の分析 17

成 度



寠 行 容 内

目 標

取

組

内

容

中核市移行に向け、より地域の実情に即した施策が必要となることから、その基本となる統計情報 の有効活用が重要となってきます。そのため、統計データベースの充実やデータ分析方法などの各種 相談業務を行うとともに、政策立案に欠かすことのできない人口に関する分析情報の共有を図りま

人口に関する分析情報の共有(平成27年国勢調査結果より)

- ・福井市の人口統計データをグラフやGISで視覚化し、地域的特長や時系列の変化を分析
- ・分析結果を庁内WEBリンク上の統計データベース「データの広場」で共有(9月)

	H-11
۲	人口の変化(人口に占める年齢層の割合の推移など)
人口	家族構成(年齢によって属する家族構成の割合など)
[	年少人口(地区別の 15 歳未満人口の割合など)
す	老年人口(地区別の 65 歳以上人口の増減率など)
á	転出転入(県内市町別の社会増減率など)
に関する分析	労働力(男女別にみる年齢別の労働力率など)
10 10	産業 (産業別に占める就業者の割合の推移など)
	結婚(生涯未婚率の推移など)
項目	住宅(年齢別にみる持ち家に住む世帯主の割合など)
	将来予測(コーホート要因法を用いる将来人口推計例)
	• •

統計データベースの充実

・統計データ数:727 データ(年度末時点) (年度更新による追加:229 データ、新規追加:26 データ)

- ・各所属が保有しているデータを収集し統計データベースに追加(8月)
- ・統計データベースに平成 27 年国勢調査等の統計データを追加 (2月)

#### 職員研修

- ・都市戦略部内研修「グラフの使い方と作り方」を実施 (5月、参加者10名)
- ・統計分析研修会「アンケート調査の設計と分析の基本」を実施 講師:福井県立大学 看護福祉部教授 塚本利幸 氏 (8月、参加者 72所属より82名)
- ・総務省統計研究研修所が実施するオンライン講座 (9月及び11月、受講者13所属より22名)

#### 相談支援業務

- ・すまいるバス運行の見直し
- ・オアシスプラン 2018 の資料作成 等 10 件

	数	値	指	標					
目	標			結	果	•	成	果	
人口に関する分析情報の共有	: 9月末	₹	人口に関す	る分析情	<b>与報の</b>	共有	•	9月末	

成

職員が統計データを活用することを目的に運用している統計データベースに、国勢調査や各所属か ら収集したデータを追加し充実を図りました。

果

統計の有用性を職員に認識してもらうための職員研修や町丁別高齢者数や将来人口推計等の問い 合わせや相談に対応した結果、すまいるバス運行の見直しやオアシスプラン 2018 の資料作成等に利 用されました。さらに、本市の企画立案や業務分析の基礎資料として共有するため、国勢調査結果に 基づく人口データ分析を実施し統計データの利活用を促進しました。

課

今後も、引き続き分析情報の提供や相談対応を通して、統計データの充実と本市職員の統計データ 利活用能力の向上に寄与します。

#### オープンデータの充実・提供

達 成 度



#### 実 行 内 容

目 標

取

組

内

容

公共データは市民共有の財産であるという意識の下、市民生活の向上、企業活動の活性化を図るた め、福井市オープンデータパークの充実に取り組むなど、積極的に行政情報を提供します。

また、本市の魅力である美しい自然や名所などを発信するため、写真データの充実や提供に取り組 みます。

#### 既存オープンデータの更新

- ・「平成28年度版 福井市統計書」の公開に合わせて参照データを最新版に更新 13件(6月)
- ・所属より更新依頼のあったデータについて更新(随時)

#### 新規オープンデータの追加

目

- ・「人口・統計」データ9件、コミュニティバスすまいる停留所データ(9月)
- ・「安全・安心」データ7件、「福祉・教育」データ2件、「人口・統計」データ1件(3月) 「写真ライブラリー」写真オープンデータの追加(3月)
- ・市で管理する観光施設等を写真分類として追加し、それぞれに関連する写真データを掲載 (ガラガラ山キャンプ場、グリフィス記念館、足羽山公園遊園地など)
- 「福井市オープンデータパーク」の利便性向上(11月)
- ・データ分野ごとのページを新たに作成し、データ概要等の掲載情報について整理
- ・データ分野「行政・生活」を「生活・くらし」「情報・通信」「行財政」の3分野に細分化 オープンデータ掲載件数

#### H 28 H 25 H 26 H 27 H 29 データ分野 掲載数 掲載数 掲載数 掲載数 掲載数 追加 生活・くらし 7 7 8 10 10 公共交通 4 4 5 2 6 1 安全・安心 3 3 4 4 11 7 6 6 6 7 福祉・教育 9 2 4 仕事・産業 4 観光・文化 2 3 8 8 情報・通信 5 5 \_ 5 行財政 9 11 11 人口・統計 3 4 6 16 10 6 計 21 26 45 60 80 20

指 標 数 値 結果・成果

オープンデータ件数 : 75 データ オープンデータ件数 : 80 データ

成 果

本市ホームページ「福井市オープンデータパーク」上にデータ掲載件数の少なかった「安全・安心」 「人口・統計」の分野を中心に、データの充実を図ったことで、目標を達成することができました。 また、「福井市オープンデータパーク」上に掲載しているデータを最新の状態に保つため、随時デー タの更新を行うとともに、データ分野ごとのページを新たに作成し、データ概要等の掲載情報を整理 することで利便性の向上を果たしました。

課 題

市が管理する観光施設等の写真を「写真ライブラリー」に追加し、その充実に努めました。 今後も、オープンデータの充実を図るため、引き続き公開データの更新や新規データを追加するな ど積極的に行政情報の提供に取り組みます。

# Wi-Fi(無線LAN)の利用促進

達成度



#### 実 行 内 容

日標

取

組

内

容

今やインターネットは趣味や娯楽だけのものではなく、観光地での情報収集に欠かせないインフラとなっています。国体・障スポの開催や北陸新幹線の開業を控え、多くの観光客の来福が見込まれます。本市を訪れた方に、つるつるいっぱいのおもてなしサービスを提供するため、快適な無料通信環境(Wi-Fi)の整備拡充を図ります。

#### 広報活動

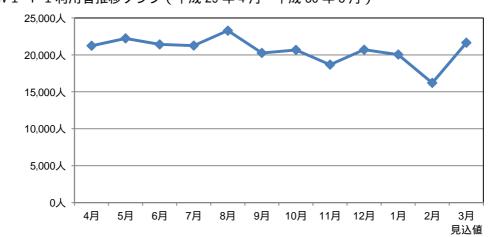
- ・ハピリンの情報インフォメーションセンターにリーフレット 100 部配布(6月)
- ・情報発信サイトにゆるキャラグランプリ投票願いを掲載(8月)
- ・田原町駅周辺、足羽山公園遊園地、ハピリン等にリーフレット 500 部配布 (12月)
- ・情報発信サイトに田原町駅周辺、足羽山公園遊園地にWi-Fiが整備された内容を掲載(12月)
- ・市政広報紙に田原町駅周辺、足羽山公園遊園地にWi-Fiが整備された内容を掲載(1月)
- ・別冊福井市タウンページ「Kokeko Book」()にWi-Fi利用可能エリアを掲載

(1月)

#### Wi-Fiエリア拡大事業

・田原町駅周辺、足羽山公園遊園地の整備完了(12月)

Wi-Fi利用者推移グラフ(平成29年4月~平成30年3月)



NTTタウンページ株式会社が発行する若年層女性をコアターゲットとしたタウンページ

	釵	1000	指 作	宗		
目	標		4	吉 果	・成果	
Wi-Fi利用者数	: 15,000 人/月		Wi-Fi利用者	数 :	20,637 人/月	](見込み)

成果

市政広報及び福井市タウンページへの掲載等による広報活動や田原町駅周辺及び足羽山公園遊園地のエリア拡大事業により、Wi-Fi利用者数が大幅に増え、市民及び来街者の利便性の向上がさらに進みました。

今回の整備により、現時点での中心市街地におけるWi-Fi整備事業が完了し、利用者も月平均20,000人を超えています。今後は、市が発信する様々な情報発信のツールとしてWi-Fiを最大限に活用していくことが必要です。

課

. 適切で合理的な公共事業推進のため、監督職員の施工体制点検を通して公共工事の品 質確保に努めます

20 公共工事の品質確保

達成度



実 行 内 容

目 工事現場の施工体制、技術者の適正配置、下請負等に関する各関連法規の厳守状況を点検し、適正 な工事執行と品質確保を図ります。

標

第1回~第6回施工体制点検の監査を受けた件数・是正指摘件数

課名	是正指摘件数 (件) A	監察を受けた件数 (件) B	指摘率(%) (A/B)×100
都市整備室	1	2	50
駅周辺整備課	0	6	0
新幹線推進室	1	2	50
計	2	10	20

指摘を受けた工事名及び指摘内容

・社整 NO.5 田原町駅周辺(北広場)整備工事 : 工事掲示物未設置

・城址周辺歩道整備工事

:建設業許可標識の不備

容

取

組

内

			数	値	指	標					
	目		標			結	果		成	果	
工事監察指摘率	:	0%			工事監察指	摘率	:	20%			

適正な施工体制のための受注者への指導や監督職員以外の職員による施工体制の点検を行なって きましたが、2件の工事において指摘があり、目標を達成することが出来ませんでした。

来年度は、今年度に指摘された事項の調査と検証、複数体制による現場点検及び受注業者への指導強化を実施することで、適切な執行体制と工事の品質確保を目指していきます。

成

果

課